

# 創立記念日 -125年目に誕生した大学博物館-

河 上 繁 樹

大学博物館は、関西学院の創立125周年を記念して昨年の創立記念日に時計台に開館しました。まもなく1年が経とうとしています。この間に3回の平常展と2回の企画展を開催しました。平常展は「関西学院のあゆみ」をタイトルとして本学の歴史や伝統を紹介し、いっぽう企画展は春学期と秋学期に1回ずつの開催を目途に、大学が収集してきた歴史、文化、美術などの貴重な資料を公開します。

関西学院大学博物館設置趣意書には、「社会に対して学校法人関西学院の教育研究の成果を発信し、〈略〉加えて、新たな知的財産の収集（寄贈・寄託などを含む）を促進し、〈略〉地域に大きく貢献できる」博物館をめざすと謳われています。大学の博物館であるからには、その母体となる学校の歴史や伝統を紹介し、あるいは検証することが求められます。と同時に、社会に貢献するためには地域とのつながりを重視し、開かれた博物館とならなければならないでしょう。

その意味で2015年春学期の企画展「愛新覚羅家の人びと -相依為命-」は、良い例となりました。本学は2013年に西宮市在住の福永媽生（愛新覚羅溥傑の次女）さんより愛新覚羅家の貴重な資料を受贈しました。一家は昭和の激動期のなかで時代の波に翻弄されながらも日中友好に尽力しました。今年は戦後70年の節目でもあり、展覧会で一家の写真や手紙などを公開したところ、たいへん話題になりました。新聞各紙やNHKの報道にも取り上げられ、記事を読んだり、TVを見た多くの人たちが博物館を訪れました。福永媽生さんの講演会には1,300人もの応募があり、中央講堂は満員の聴衆で埋まりました。

福永媽生さんが守ってこられた一家の思い出が詰まった大切な資料は、大学博物館に託されました。この資料は一家族の思い出にとどまらず、歴史の証拠品、証言者として重要な意味があります。それを託され、公開し、保存していくことは、大学博物館の使命であり、社会への貢献でもあります。関西学院大学博物館は小さな博物館ですが、学内に留まらず、社会にむかって大きく羽ばたきたいと願っています。

創立記念日をむかえ、大学博物館は2年目の新たな一歩を踏みだします。

(大学博物館長)